

平成27年度第2回鶴岡市総合教育会議 議事録

- 日時 平成27年12月17日(木)
○場所 市役所・庁議室
○出席構成員 市長 榎本 政規
教育委員長 田中 芳昭
教育委員 毛呂 光一(教育委員長職務代理者)
教育委員 佐藤 清美
教育長 難波 信昭
○出席職員 総務部長 石塚 治人
○傍聴人 15名

- 進行 教育部長 小細澤 充
議事説明職員 管理課長 石塚 健
事務局職員 管理課庶務係長 五十嵐 広樹

開会(午後1時30分)

- 教育部長 ただいまから、第2回総合教育会議を始めさせていただきます。
はじめに市長よりごあいさつをお願いします。
- 市長 (あいさつ)
- 教育部長 次に教育委員会を代表して田中委員長からあいさつをお願いします。
- 委員長 (あいさつ)
- 教育部長 それでは早速ですが3の協議に入らせていただきます。
鶴岡市教育大綱の策定について、協議させていただきます。第1回総合教育会議での経過とパブリックコメントの結果について事務局から説明を申し上げます。
- 管理課長 (説明)
- 教育部長 パブリックコメントにつきましては、市民のみなさまからのご意見等はなかったということでございます。これまでの経過を踏まえてみなさま方から何かご意見がありましたらお聞きしたいと思いますがいかがでしょうか。
- 全員 なし。
- 教育部長 それでは特に無いということでございますので、原案のとおり策定することよろしいでしょうか。
- 全員 はい。
- 教育部長 それでは原案のとおり策定することにします。
続いて4の当面の課題についての(1)平成28年度鶴岡市教育関係重点施策について、ご協議をお願い申したいと思っております。次第にございますとおり、4点について記載させていただきました。はじめに学力向上策について、事務局から説明申し上げます。
- 管理課長 (説明)

市長 学力テストの状況については、もうひとがんばりが必要だと思っています。持っている能力をもう少し高めることで、結果がついてくると思うし、教育の一番の基本は、学校で学んだことが、将来社会で使えるかにあるので、先生方からは学力テストの結果を精査して、がんばっていただきたい。

また公表については、将来の方向性として出てくると思うし、公表されても問題のないような形、ここまでするのだからという指導が求められるでしょう。

教育長 鶴岡の子どもたちはもっとやれる子だと思っているし、勉強はしています。学力テストの状況から言えることとしては、負の面としては、復習はしていても予習をしていないとか、ゲームやテレビの時間が長いなどがあります。いい面としては、ふるさとのことを大切に思う意識や、それに連動して、地域行事への参加率が高く、友達を思う気持ちも高い、などが挙げられます。そういった子どもたちをやる気にさせるにはという所を考えていかなければと思っています。

公表については、学校別の状況は公表していませんが、学校には各々公表していますし、生活習慣については公表しています。家庭での習慣は、公表することで、家庭教育への指導も強化できます。

一番は、授業の基盤になる、先生と子どもの人間関係の充実を努力していきたいし、家庭や地域へのアプローチも伸びしろのある部分だと思うので、そこも努力していきたい。

市長 学校経営の一環として、自分が教える子どもたちの成績・能力を良くすることは、義務であると思っています。

毛呂委員 私も家庭での取り組みを働きかけることが必要だと思っています。市P連でもネットとかメディアとかに対する取扱いをどうしたらいいのかをみんなで考えていまして、スペシャリストの先生から講演をしてもらったりしています。

教育部長 人間関係や家庭環境とか総合的なものが学力に表れると思いますので、これらの課題は課題として捉えて、今後の行政に生かしていきます。

市長 ひとつだけ情報提供します。山形大学での鶴岡の子どもたちの占める割合が減ってきているということで、学力をあげてもらわないといけないと言われました。財務省の知り合いからも、東京にたくさん私立の医学系大学はあるけれども、費用が安いということで、首都圏の学生が東北地方の国公立大学医学部へ多く入ってきている状況にあるということです。結果的に、私たちの地元の人材がほとんど残らないということになりますので、学力向上については、みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

教育部長 それでは次の協議題に移らせてもらいます。Q-Uアンケートについて、事務局から説明申し上げます。

管理課長 (説明)

教育長 市では、去年から1回分を予算措置していただき、たいへんありがたいのですが、本来は年2回実施が理想です。実際は各校で工夫して、PTA予算などで追加実施しているのがほとんどです。

なぜ2回かという、子どもたちの意欲・満足度などの変化を見ることによって、きちんと比較検討でき、ひいては良好な人間関係を保つことにあります。ただ学校側はQ-U

だけに頼っているわけではないですし、日々の観察で、アンテナを高くしているわけですが、それでも見えないところがあるわけで、その辺を知ることも必要性のひとつです。

全市1回は行っているのですが、これから人間関係が複雑になる、統合校の優先的な2回実施をできないものかと考えているところです。

市長 効果があることは分かりました。単面的にもそれほどではないので、予算的には大きな問題ではないと思います。ただ将来的に、そういった仕事は、鶴岡市内の教員のOBの方とかでできないのか。その辺を考えてほしい。

委員長 効果はあります。学級内の人間関係が、表面的にはうまくいっているように見えても、実は問題があることが分かったりします。学級崩壊を未然に防いだ例もあります。Q-Uについては、教員の研修会もやっていますし、出された解答をうのみにせず、研究・分析を通して、担任も力をつけていきます。落ち着いた学級でないとなんか勉強に本腰が入らなく、余計なところに力を入れなくてはならなくなります。小さい集団から大きい集団に変わった時に、人間関係がどうなるかだとか、勉強できる環境作りに役立てたいのです。ぜひ2回お願いしたい。

毛呂委員 統合校でのいじめ等はほとんどない状況ですが、Q-Uは表面的な状況だけでなく、深層心理まである程度分かるものですし、統合校だからいじめが起きたとかは絶対に許されないわけで、まずはやってみて、どうなのかを検討していくのが必要かと思います。

市長 これを、何年先までやっていくのか、どこまで追跡していくのが大きな課題となります。

教育長 教員もいろんな教員がいます。苦手な分野を持っている先生もいます。難しいとは思いますが、そうした中でも、子どもたちの心の奥底にあるものを感じ取れる教師を作らなければいけないと思っています。その辺をわかってもらえればと思います。

市長 業者について、毎年同じでなく、違った人の考えも入れていかないと、毎年同じ解答になるのではという危惧があります。

委員長 Q-Uを何年かやると、教師も自分で分析する力がついてきます。

教育部長 それではこれでQ-Uについての意見交換を終了とします。次の議題である、屋内多目的運動施設の建設について、説明をお願いします。

管理課長 (説明)

委員長 冬期間、サッカー・グラウンドゴルフなどの屋外競技やフットサルをやる場がなく、三川町・庄内町でやっています。前は、旧鶴岡市体育館、旧鶴三中・旧大山中体育館があったが、解体しました。鶴岡市にもそういった活動ができる場所がほしいのです。

市長 市としては、財政状況をみながらの整備しかないです。平成32年まで合併特例債があるので、できれば使いたい。一方では、公共施設の老朽化対策・長寿命化対策もあります。そちらもしっかりやっていかないとと思っております。

閉校による体育館はどこも郊外地が対象となっているので、市内に集約的に考えなければと思っています。優先順位をつけながら、自前で作るしかないと考えています。

総務部長 資料をざっと見ると100億円を超えます。合併特例債だけでなく、過疎債・辺地債・義教債などの組み合わせが必要かと思われます。作るなら半端なものではなく、ちゃんとした

ものを作りたいという意味でも、建設はもちろん必要ですが、優先順位も必要です。

委員長 東北大会規模の大会を持ってこれるものがあると交流人口も広がると思います。きちっとした体育施設を作っていただきたいと思います。

教育部長 教育委員会といたしましては、優先順位をつけながら、計画的に、要望させていただきたいと思います。それでは、協議題の最後になりましたけれども、スクールバスの運行について、ご説明申し上げたいと思います。

管理課長 (説明)

教育長 校外学習については、旧町村については、小回りがきいていて、学習バスとしてよく使われてきたと思います。旧鶴岡市では、年間で1学年1回という制約がありました。統合が進む中で、地域からは子どもたちの声が聞こえなくなって寂しいと言われ、地域でのふるさと学習を行いたいと思っており、そのためにスクールバスの運行は欠かせないと思っています。合併になって広くなった市を、広く理解してもらうためにも、ふるさと鶴岡を大事に思う、誇りに思うためにも、その学習の下地になっていくものと思います。

民間のバス運行会社に借上げを頼めば、運賃が高くつくので、スクールバスが空いている時間になんとかできないものかという相談です。

市長 毎年のように大型バスの事故があったことから、運行時間・形態に厳しく規制をかけていて、運転手の需要が多いのに人がいないという状況があります。

あと、スクールバスの価格も高くなっています。観光バスの方が需要があり、作れば売れる状況だそうです。

将来的に鶴岡市のスクールバスは、自前で全部やっていくしかないのかなと思っています。朝晩以外の空いている時間は、協定時間の制約とかあるので、別の形で雇用ができないものかと思っています。文科省の予算を使ってスクールバスを買った場合、混乗することを許可するか、あるいは登下校以外に別利用したときにどんな課題が出てくるかを地域振興課に調査させています。学校の地域外学習には有効活用してもらいたいので、財政課、地域振興課に相談してほしい。

全く違う観点ですが、農家の人が除雪に別法人で参入してきています。営利でなく、対価だけを払う形であれば、受けてくれる人が出てくる可能性があります。

佐藤委員 過疎地域の意見としては、路線バスは1日3、4便の状態、スクールバスが同じところを走っている、うまく利用できないかと思っています。市全体で考えていけないといけないと思います。

市長 将来的には、借上げは解消し、所有でやりたい。空いた時間は、地域学習で使う、混乗含め、地域ごと曜日で分けての運行ができないか、登校時間が小中学生よりも早い高校生をどうするか等について、市全体でどうあるべきかを考えたい。

運転集団を作ることは、難しいところはいっぱいありますが、研究させます。

教育部長 スクールバスの運行につきましては、種々の課題はありますが、地域交通のあり方を含め充分考えてまいります。

その他何かありますか。

全員 なし。

みなさまから何も無ければ、これで第2回鶴岡市総合教育会議を終了させていただきます。たいへんごくろうさまでございました。

閉会（午後3時00分）